

Jordan And Hamburg LLP
F-7929
Osamu FURUKAWA et al

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 3 月 2 4 日
Date of Application:

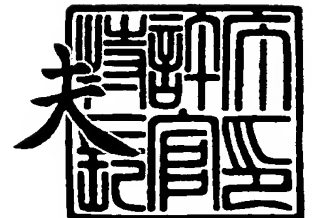
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 7 9 6 6 4
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 0 7 9 6 6 4]

出 願 人 株式会社オーテックジャパン
Applicant(s):

2 0 0 3 年 7 月 2 2 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 5 8 1 6 7

【書類名】 特許願

【整理番号】 AJ-243

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A60N 2/24

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県茅ヶ崎市萩園 8 2 4 番地 2 株式会社オーテックジャパン内

 【氏名】 古川 理

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県茅ヶ崎市萩園 8 2 4 番地 2 株式会社オーテックジャパン内

 【氏名】 阿由葉 雄一

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県茅ヶ崎市萩園 8 2 4 番地 2 株式会社オーテックジャパン内

 【氏名】 遠藤 俊治

【特許出願人】

 【識別番号】 000128544

 【氏名又は名称】 株式会社オーテックジャパン

【代理人】

 【識別番号】 100088100

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 三好 千明

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 003311

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808452

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 配索構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 シートへの着座者が操作するコントローラと装置本体間に設けられたケーブルの配索構造において、

前記シートのシートバックに、前記ケーブルの中途部を係止する係止部を設け、該係止部での前記ケーブルの高さ位置を、前記シートのシートクッションより高位置に設定したことを特徴する配索構造。

【請求項 2】 前記シートバックと該シートバックに複数のクリップで固定されたバックボードとの間に紐状の係止部材を設け、

該係止部材に、異なる箇所のクリップで係止される少なくとも一対の被係止部を設けるとともに、両被係止部間に、前記バックシートと前記バックボードとに挟まれて位置決めされ、該バックボードの外周部に延出する前記係止部を設定したことを特徴する請求項 1 記載の配索構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、コントローラに接続されたケーブルの配索構造に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、車両のシートの下部には、図 4 に示すように、シート 101 をスライド又は回転する為の制御装置が設けられている。この制御装置からは、ケーブルであるカールコード 102 が延出しており、該カールコード 102 の先端には、前記制御装置を作動するコントローラ 103 が設けられている。

【0003】

該コントローラ 103 は、シートクッション 111 側部のホルダー 112 に脱着自在に保持されており、このコントローラ 103 を着座者が手にして操作することにより、当該シート 101 をスライド又は回転できるように構成されている。

。

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、このような配索構造にあっては、余裕を持たせる為にカールコード102が長めに設定されており、シート101作動時に、カールコード102をスライド機構や回転機構に挟み込むことがあった。

【0005】

この場合、断線が生じることがあり、コントローラ103による操作が不能となる恐れがあった。

【0006】

本発明は、このような従来の課題に鑑みてなされたものであり、断線による不具合を防止することができる配索構造を提供することを目的とするものである。

【0007】**【課題を解決するための手段】**

前記課題を解決するために本発明の請求項1の配索構造にあっては、シートへの着座者が操作するコントローラと装置本体間に設けられたケーブルの配索構造において、前記シートのシートバックに、前記ケーブルの中途部を係止する係止部を設け、該係止部での前記ケーブルの高さ位置を、前記シートのシートクッションより高位置に設定した。

【0008】

すなわち、装置本体からコントローラへの延びるケーブルは、その中途部がシートバックに設けられた係止部で係止されており、この係止部における前記ケーブルの高さ位置がシートクッションより高位置に設定されている。

【0009】

このため、シートクッション上の着座者が操作するコントローラと前記係止部に位置するケーブルの高さ位置は、前記シートクッションより高位置に維持される。

【0010】

また、請求項2の配索構造においては、前記シートバックと該シートバックに複数のクリップで固定されたバックボードとの間に紐状の係止部材を設け、該係

止部材に、異なる箇所のクリップで係止される少なくとも一对の被係止部を設けるとともに、両被係止部間に、前記バックシートと前記バックボードとに挟まれて位置決めされ、該バックボードの外周部に延出する前記係止部を設定した。

【0011】

すなわち、シートバックとバックボード間に設けられた係止部材は、一对の被係止部が異なる箇所のクリップで係止されるとともに、両被係止部間が前記バックシートと前記バックボードとに挟まれた状態で位置決めされる。

【0012】

そして、この係止部材には、前記バックボードの外周部に延出する部位に前記係止部が設定されており、この係止部によって前記ケーブルはシートバックに固定される。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施の形態を図に従って説明する。図1は、本実施の形態にかかる配索構造を示す図であり、車両の運転席のシート1に応用した例が示されている。

【0014】

このシート1は、装置本体11を介してフロア12に固定されており、前記装置本体11には、前記シート1を電動で回転する回転機構13と、電動で前後にスライドさせるスライド機構14とが設けられている。この装置本体11の車両後方R側の背面からは、ケーブルとしてのカールコード15が延出しており、該カールコード15の先端には、コントローラ16が設けられている。これにより、前記シート1への着座者が、前記コントローラ16を手にして各ボタン17、・・・を操作することで、前記シート1を回転したりスライドできるように構成されている。

【0015】

前記シート1の背凭れを形成するシートバック21の背面22には、図2に示すように、複数のクリップ23、・・・によってバックボード24が取り外し可能な固定されており、該バックボード24と前記シートバック21との間には、

長尺状の係止部材 25 が配設されている。

【0016】

該係止部材 25 は、図 3 に示すように、紐状に形成されており、その両端部には、端末部が環状に結ばれてなる被係止部としての上ループ部 31 及下ループ部 32 が形成されている。両ループ部 31, 32 は、前記クリップ 23 を挿通できる大きさに形成されており、図 2 に示したように、前記バックボード 24 を前記シートバック 21 に固定する上下のクリップ 23, 23 を挿通した状態で、前記バックボード 24 と共に前記シートバック 21 に固定されるように構成されている。

【0017】

前記両ループ部 31, 32 の中途部には、図 3 に示したように、前記カールコード 15 に結ばれてなる係止部 41 が設定されており、該係止部 41 から上部のクリップ 23 に係止される上ループ部 31 までの長さ寸法 42 より、前記係止部 41 から下部のクリップ 23 に係止される下ループ部 32 までの長さ寸法 43 が長くなるように設定されている。これにより、図 2 に示したように、上下ループ部 31, 32 を上下のクリップ 23, 23 に係止した状態で、前記係止部 41 がシートバック 21 の上方寄りに配置されるように構成されている。

【0018】

この係止部 41 は、その基端部が前記バックシート 21 と前記バックボード 24 とに挟まれた状態で位置決めされており、この状態において、当該係止部 41 が前記バックボード 24 の外周部に延出するように当該係止部材 25 の長さ寸法が設定されている。これにより、前記シートバック 21 の背面 22 には、図 2 に示したように、前記カールコード 15 の中途部を係止する前記係止部 41 が設けられており、該係止部 41 に係止された部位での前記カールコード 15 の高さ位置が、図 1 に示したように、前記シート 1 のシートクッション 51 より高位置に設定されている。

【0019】

そして、前記シート 1 のシートクッション 51 の側部には、前記コントローラ 16 を着脱自在に保持するホルダー 52 が設けられており、このホルダー 52 に

保持されたコントローラ 16 から前記係止部 41 までの間には、当該カールコード 15 のシートクッション 51 より下方への垂れ下がり防止する垂下防止領域 61 が設定されている。また、前記係止部 41 から前記装置本体 11 までの間には、シートスライド時のカールコード 15 の伸び縮みを許容する余裕代が設けられた伸縮領域 62 が設定されている。

【0020】

以上の構成にかかる本実施の形態において、装置本体 11 からコントローラ 16 への延びるカールコード 15 は、その中途部がシートバック 21 に設けられた係止部 41 に係止されており、この係止部 41 におけるカールコード 15 の高さ位置がシートクッション 51 より高位置に設定されている。

【0021】

このため、シートクッション 51 上の着座者が操作するコントローラ 16 と前記係止部 41 間に位置するカールコード 15 の高さ位置を、前記シートクッション 51 より高位置に維持することができる。これにより、シート 1 下方へのカールコード 15 の垂れ下がりを防止することができる。

【0022】

したがって、カールコード 15 がシート 1 下方に垂れ下がり、シート 1 下部に設けられた装置本体 11 の回転機構 13 やスライド機構 14 に挟み込まれる恐れがあった従来と比較して、挟み込みに起因したカールコード 15 の断線等の不具合を防止することができる。これにより、コントローラ 16 による操作が不能となるといった不具合を未然に防止することができる。

【0023】

そして、前記カールコード 15 の余裕代を、前記係止部 41 と前記装置本体 11 間の伸縮領域 62 に設定することで、シート 1 の作動に応じてカールコード 15 に加わる張力等の負荷を防止することができる。

【0024】

また、シート 1 のシートバック 21 とバックボード 24 間に設けられた係止部材 25 を、異なる箇所のカリブ 23、23 と、バックシート 21 とバックボード 24 間の挟持部との三箇所位置決め固定することができる。

【0025】

これにより、シートバック21にカールコード15係止用の係止穴を開設したり、ブラケットを固定する等の後加工を施すことなく、カールコード15の係止部41を設けることができ、現状復帰が可能となる。

【0026】

なお、本実施の形態にあつては、係止部材25の中途部がカールコード15に結び付けられてなる係止部41を例に挙げて説明したが、これに限定されるものではなく、前記係止部材25が折り返されてなる折返し部の一部をバックボード24から延出して前記係止部41を構成したり、係止部材25の中途部にカールコード15に着脱自在に係合するクリップを設けて前記係止部41を構成しても良い。

【0027】**【発明の効果】**

以上説明したように本発明の請求項1の配索構造にあつては、装置本体からコントローラへ延びるケーブルの中途部を、シートバックに設けられた係止部で係止することにより、シートクッション上の着座者が操作するコントローラから係止部間に位置するケーブルの高さ位置を、シートクッションより高位置に維持することができる。これにより、シート下方へのケーブルの垂れ下がりを防止することができる。

【0028】

したがって、ケーブルがシート下方へ垂れ下がり、シート下部のスライド機構や回転機構等に挟み込まれる恐れのある従来と比較して、挟み込みに起因した断線等の不具合を防止することができる。

【0029】

そして、ケーブルの余裕代を、前記係止部と前記装置本体間に設定することで、シートの作動に応じてケーブルに加わる張力等の負荷を防止することができる。

【0030】

また、請求項2の配索構造においては、シートバックとバックボード間に設け

られた係止部材を、異なる箇所のクリップと、バックシートとバックボード間の挟持部との三箇所位置決め固定することができる。

【0031】

これにより、シートバックに係止穴を開設したり、ブラケットを固定する等の後加工を施すことなく、ケーブルの係止部を設けることができ、現状復帰が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施の形態を示す側面図である。

【図2】

同実施の形態の要部を示す背面図である。

【図3】

同実施の形態に係止部材を示す説明図である。

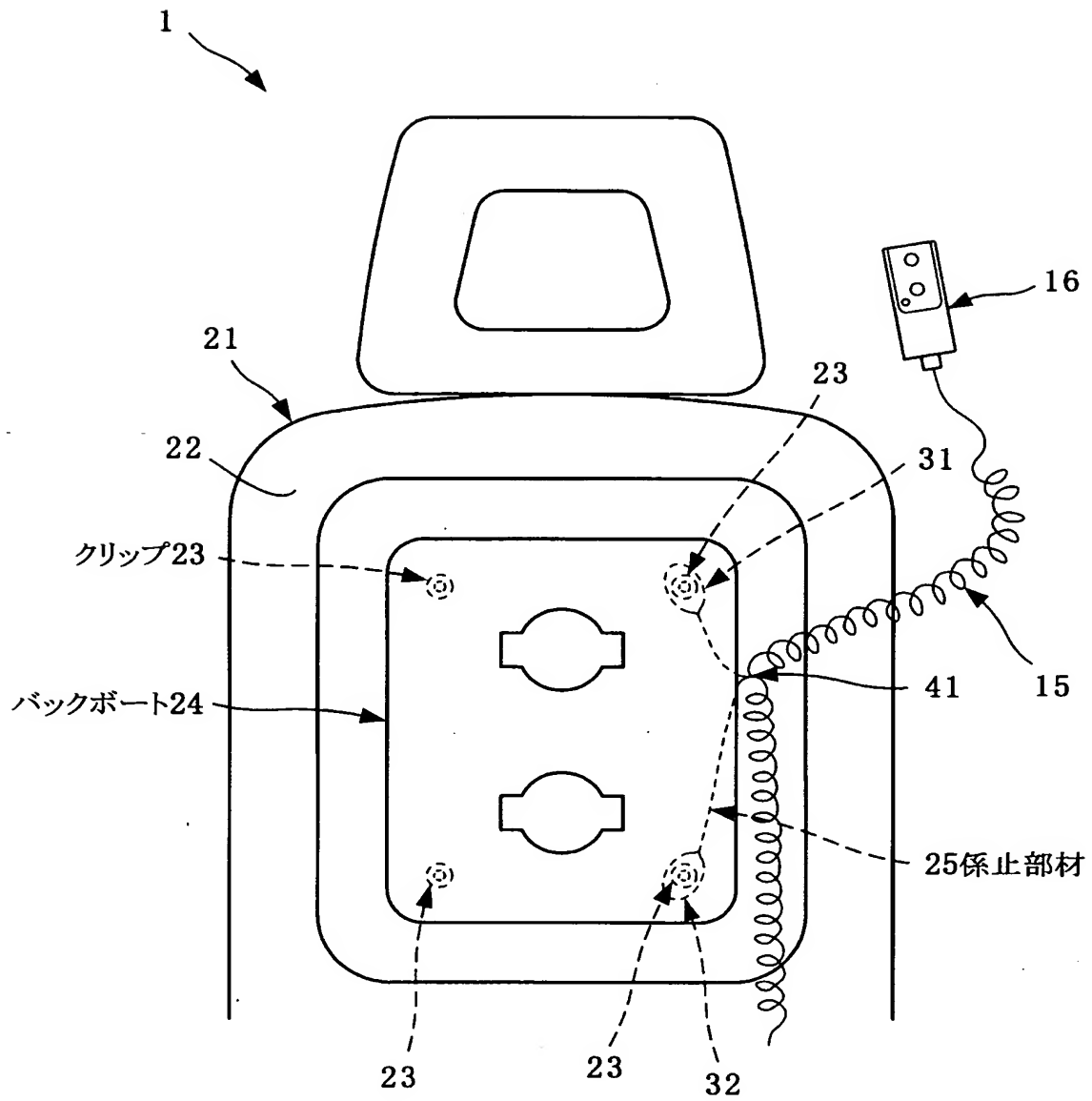
【図4】

従来の配索構造を示す側面図である。

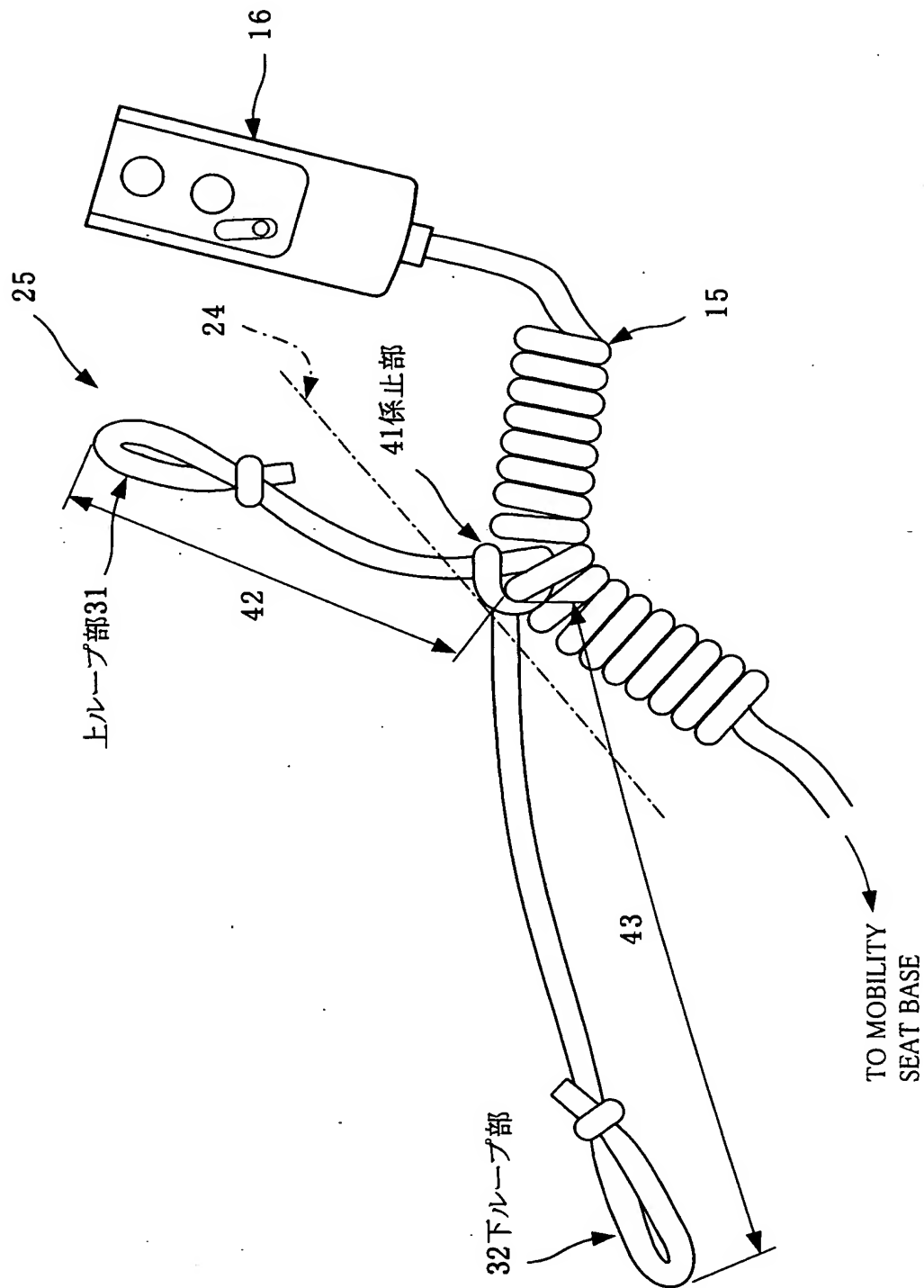
【符号の説明】

- 1 シート
- 11 装置本体
- 15 カールコード（ケーブル）
- 16 コントローラ
- 21 シートバック
- 24 バックボード
- 25 係止部材
- 31 上ループ（被係止部）
- 32 下ループ（被係止部）
- 51 シートクッション

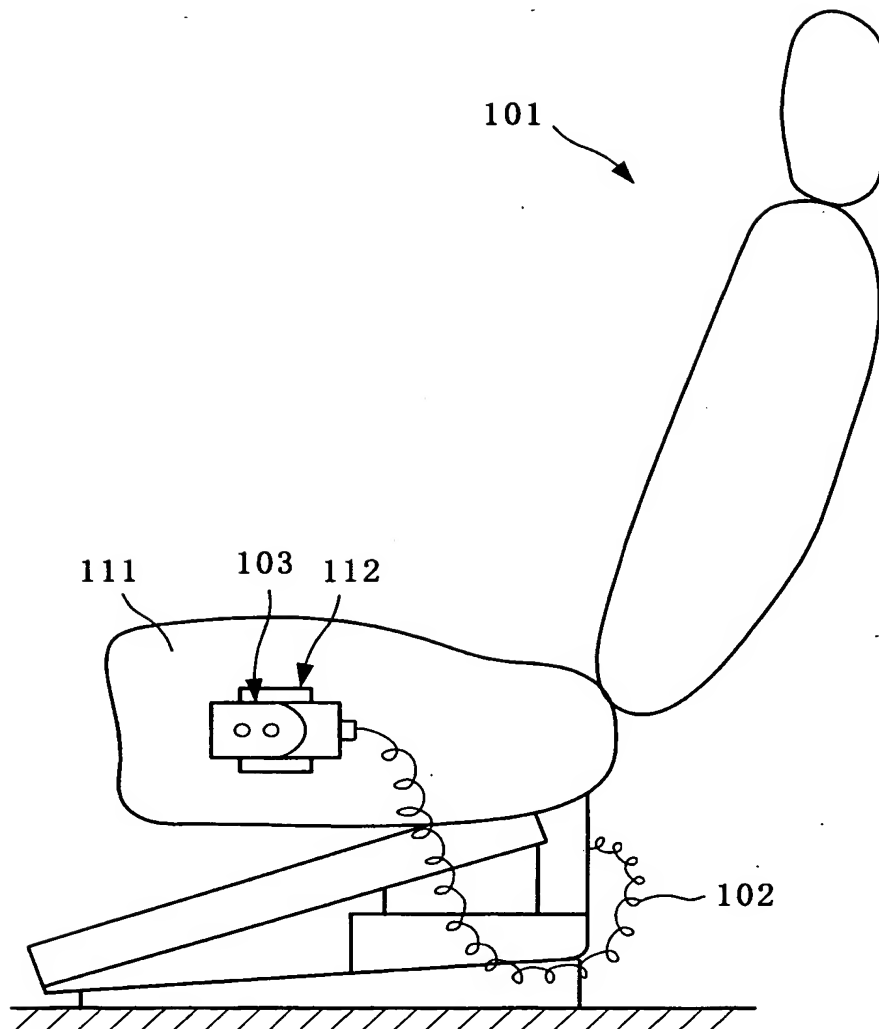
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 断線による不具合を防止することができる配索構造を提供する。

【解決手段】 シート 1 下部の装置本体 11 からカールコード 15 を延出し、カールコード 15 先端にコントローラ 16 を設ける。シートバック 21 の背面 22 にクリップでバックボードを固定し、バックボードとシートバック 21 間に係止部材を設ける。係止部材両端の上ループ部及下ループ部を、クリップでバックボードと共にシートバック 21 に固定する。両ループ部の中途部にカールコード 15 に結ばれた係止部 41 を設け、係止部 41 の基端をバックシート 21 とバックボード間に挟んだ状態で位置決めしてシートバック 21 にカールコード 15 の係止部 41 を設ける。係止部 41 でのカールコード 15 の高さ位置をシートクッション 51 より高位置に設定する。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-079664
受付番号	50300467591
書類名	特許願
担当官	第一担当上席 0090
作成日	平成15年 3月27日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成15年 3月24日

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 7 9 6 6 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 2 8 5 4 4]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 8 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県茅ヶ崎市萩園 8 2 4 番地 2

氏 名

株式会社オーテックジャパン